

## VI 令和4年度 全国大会報告

## 第97回 令和4年度全日本盲学校教育研究大会・富山大会

### 1 大会概要

- (1) 大会主題 「変化する社会に対応した視覚障害教育～ 学びを支える教育環境の変化に伴う指導・支援のあり方～」
- (2) 期 日 令和4年8月1日（月）～8月30日（火）、【情報交換会】8月22日（月）  
ライブ開催
- (3) 場所（会場） オンライン会場

### 2 内 容

- (1) 全体会・講演（オンデマンド配信）
  - ① 演題 「デジタル社会（ICT）の到来と視覚障害者の生活や職業の展望  
～今、学校教員（教育）に求められるもの～」  
講師 内閣府障害者政策委員会 委員長、全国高等教育障害学生支援協議会 代表理事、  
障害学会 会長、元国連障害者権利委員会 副委員長、  
静岡県立大学名誉教授 石川 准 氏
- (2) 分科会（オンデマンド配信）
  - ① 研究発表（発表者33名）動画形式の音声付きパワーポイントデータ
    - ア 第1分科会 学習指導1（7名）
    - イ 第2分科会 学習指導2（6名）
    - ウ 第3分科会 生活（7名）
    - エ 第4分科会 特別支援（6名）
    - オ 第5分科会 理療（7名）
- (3) 情報交換会
  - ① 全国の盲学校・視覚特別支援学校をつなぎ、発表者と視聴者が参加
    - ア 期日までに Web 上に載せられた質問への回答や意見交換、各分科会テーマに沿った情報交換の場とする。

### 3 報 告

今年度の全日本盲学校教育研究大会は新型コロナウイルス感染拡大を受け、全大会と分科会発表はオンデマンド配信で、情報交換会は Zoom でリアルタイムに実施された。

例年であれば学校から出張として3名ほどが研究大会に参加していたが、今回はオンデマンド配信であったため、団体として登録し、職員全員が視聴出来た。視覚障がい関係の研究大会は限られているため、多くの職員が講演や発表を視聴できたことは貴重であった。また、第4分科会では本校が早期教育について幼稚部の取組を発表した。質疑応答の際にも各機関との連携について情報交換ができるなど充実した場となっていた。

## 第56回全日本聾教育研究大会（愛知大会）

### 1 大会概要

- (1) 大会主題 「聴覚障害教育の専門性の継承とさらなる発展」  
～主体的・対話的で深い学びの授業を目指して～
- (2) 期 日 令和4年10月6日（木）、7日（金）
- (3) 場 所 ウィンクあいち、千種聾学校、一宮聾学校、名古屋聾学校

### 2 内 容

#### 【1日目】10月6日（木）

授業公開（千種聾学校、一宮聾学校、名古屋聾学校）

授業研究分科会（幼稚部、小学部、中学部、高等部本科、高等部専攻科）

開会式・記念講演会

#### 【2日目】10月7日（金）

研究協議分科会

- |                          |                     |
|--------------------------|---------------------|
| ① 早期教育Ⅰ（乳幼児）             | ② 早期教育Ⅱ（幼稚部）        |
| ③ 教科指導Ⅰ（小学部）             | ④ 教科指導Ⅱ（中学部）        |
| ⑤ 教科指導Ⅲ（高等部）             | ⑥ 自立活動Ⅰ（発語・発音、聴覚活用） |
| ⑦ 自立活動Ⅱ（障がい認識、コミュニケーション） |                     |
| ⑧ 重複障害教育                 | ⑨ 寄宿舍教育             |
| ⑩ キャリア教育                 | ⑪ 地域連携・センター的機能      |

閉会行事

#### 【その他】

授業研究分科会 ※オンデマンド配信

（愛知県立一宮聾学校 中学部 国語「盆土産」）

#### 【記念講演】

演題 「令和に日本型学校教育を実現するために」 講師 玉置 崇 氏（岐阜聖徳学園大学）

### 3 報 告

授業公開では、主に一宮聾学校中学部の授業を参観した。各学級3名程度のクラス編成であった。授業では、教師が個々の実態に応じた言葉掛けや生徒間の関わりを深めるための支援を行うことで生徒が積極的に情報を共有し、お互いの考えや気づきを伝え合っていた。授業研究分科会では、事前にオンデマンド配信で代表授業公開（中学部国語）が行われた。考えを深め合うための「話し合い」がテーマとなった。話し合いをする上では、①決め事②指導③フォーマットのように手順を踏みながら体験を通して身に付けていくことが必要であることが分かった。また、話し合いの目的や目標がおさえられていたかの振り返りも重要であることが分かった。研究協議会の情報交換の中で、地域の中学校との連携を通して教科指導の専門性の向上を図っている学校があり、参考になった。記念講演は、玉置先生が「授業とは、この私が目の前にいるこの子どもとともに創っていくもの」と話された。主体的な子どもを育てるためには、授業に1つ生徒が自己選択できる場面を入れること、子ども自身が学習を調整するための振り返りが大切であることが分かった。もっと学びたいと思える授業でできているだろうか、確かな言語力は身に付いているだろうか、自分自身の授業を振り返る機会となった。

## 第61回全日本特別支援教育研究連盟全国大会「秋田大会」

### 1 大会概要

- (1) 大会主題 「夢や志をもち、自ら未来を切り拓く子どもの育成」  
～「自立と社会参加」に向けた特別支援教育の充実を目指して～

### 2 内 容

- (1) 記念講演  
演題：「全ての教師に求められる特別支援教育に関する専門性」  
～発達障害のお子さんへの指導や支援を通して～  
講師： 秋田大学教育文化学部 准教授 鈴木 徹 氏
- (2) 研究報告  
三木安正記念研究奨励賞受賞者  
「児童の『できる』を増やす支援について」  
～ABC分析の考え方を取り入れたリーフレットの作成・活用を通して～  
千葉県茂原市立荻原小学校 教諭 鈴木 あやか
- (3) 分科会（全14分科会）

	分科会名	分科会テーマ	提案者
1	学校経営	社会に開かれた教育課程の充実	川崎市・秋田県
2	自立活動	一人一人に必要な力を育む自立活動	北海道・湯沢市
3	交流及び共同学習	豊かな関わりを育む交流及び共同学習	城陽市・鹿角市
4	通常の学級での取組	特別支援教育の視点を生かした授業と学級経営	焼津市・仙北市
5	通級による指導	一人一人に応じた効果的な指導や支援の在り方	熊本市・横手市
6	特別支援学級における教科指導	教科の特性を生かし障害に応じた指導の在り方	村山市・由利本荘市
7	生活単元学習	生活を豊かにする生活単元学習	茨城大附属・能代市
8	作業学習	社会的自立に向けた作業学習	鳥取大附属・大館市
9	視覚障害	視覚障害のある児童生徒への専門性を生かした指導	新潟県・秋田県
10	聴覚障害	聴覚障害のある児童生徒への専門性を生かした指導	岩手県・秋田県
11	肢体不自由	障害の特性等に応じた指導上の配慮の在り方	丹波篠山市・秋田県
12	センター的機能	地域の特別支援教育に関するセンターとしての機能の在り方	福島県・秋田県
13	教科別の指導	教科の特性を生かし障害に応じた指導の在り方	青森県・秋田県
14	キャリア教育と就労支援	卒業後を見据えた一貫した指導の在り方	宮城県・秋田県

### 3 報 告

今回の研究大会は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、全体会は参加者を限定しての会場開催、分科会は誌上開催となった。大会収録【CD-R】と全体会【DVD】は、令和5年2月末までに、各研究団体へ送付予定である。来年度の全国大会は、徳島県において従来の形（参集）での開催予定である。

# 第68回全国肢体不自由教育研究協議会全国大会 兵庫大会

## 1 大会概要

- (1) 大会主題 「肢体不自由教育の充実をとおした共生社会形成の推進」  
～個別最適な学びと協働的な学びの実現をめざして～
- (2) 期 日 会場集合 令和4年11月17日(木)  
動画配信 令和4年12月21日(水)～令和5年1月10日(火)
- (3) 開催形式〈会場集合〉  
アクリエ姫路(姫路市文化コンベンションセンター)  
〈動画配信〉  
第68回全国肢体不自由教育研究協議会兵庫大会 ホームページ

## 2 内容

- (1) 〈全体会〉
- ・会長挨拶 ・実行委員長挨拶 ・来賓祝辞
  - ・文部科学省講話  
演題：「肢体不自由教育に期待すること」  
講師：初等中等教育局視学官  
(併)特別支援教育課特別支援教育調査官 菅野 和彦 氏
  - ・記念講演講話  
演題：「肢体不自由教育の今後～高等部卒業後の豊かな生活をめざして～」  
講師：兵庫教育大学名誉教授 冨永 良喜氏

### (2) 第1分科会～第10分科会

分科会	内容
第1分科会	授業改善
第2分科会	学習指導Ⅰ(準ずる教育程)
第3分科会	学習指導Ⅱ(知的代替の教育課程)
第4分科会	学習指導Ⅲ(自立活動を主とする教育程)
第5分科会	自立活動
第6分科会	健康教育
第7分科会	情報教育・支援機器の活用
第8分科会	生活指導・寄宿舎教育
第9分科会	キャリア教育及び進路活動
第10分科会	地域との連携

- ・提案者からの事例報告 各分科会2名 音声付きプレゼン・動画等による報告
- ・助言者からの指導助言 音声付きプレゼン・動画等による指導助言

#### 【ポスター発表】

- ・ホームページ上でのポスター(PDF)発表

#### 【大会冊子】

- ・大会期間は大会概要等、一部データのダウンロードが可能
- ・大会集録を作成し、開催終了後に参加各校あてに送付

### 3 報告

本大会は、会場において開会式・全体会等、大会行事の一部が開催され、後日その内容と事前撮影された動画を大会ホームページ上にアクセスして見る形で実施された。

記念講演では、富永良喜氏が肢体不自由特別支援学校(養護学校)で学んだ方へのインタビューを通して、卒業後の自立や学校での自立活動についての話をされた。コミュニケーション力の育成、主体的・自発的・能動的な生き方が大切であり、それには周囲のサポート、本人の意思と努力が必要だと話されていた。また、肢体不自由教育を実践する中で大きな役割を果たす自立活動の中でも「5身体の動き」が重要だと考えられており、動作が心理的安定、主体性・能動性、コミュニケーション・人間関係形成に繋がっていて、上手く身体を動かさない時に周囲にお願いできるかということが「困ったときに助けを求める」力に繋がるという内容だった。

文部科学省講話では、主に学習評価について話をされた。指導と評価の一体化が重要だということ、評価の妥当性、客観性をもたせるために観点別評価の必要性があること、単元を通して全観点について評価すること、活動の評価にならないようにすることについて、具体的な単元を例に挙げながら講話があった。

分科会は、各分科会2つずつの事例報告の動画と、助言者からの指導助言を視聴することができ、ポスター発表では計79のポスターを閲覧することができた。Web開催となったことから、学校や自宅で動画や資料を視聴・閲覧することができ、全国の多くの参加者にとって、大変有意義な大会となった。

## 第63回 全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会 山口大会

### 1 大会概要

- (1) 大会主題 「児童生徒個々のニーズに応じた、生きる力を育む病弱教育のあり方」  
～ 子どもたちが生きる未来 今 できること ～
- (2) 期 日 令和4年8月10日(水)～31日(水)
- (3) 方 法 動画および電子文書の配信

### 2 内 容

- (1) 全体会  
①全病連理事長あいさつ  
②主管校校長あいさつ
- (2) 記念講演  
演題「令和の病弱特別支援教育へ—小児科医がお伝えしたいこと—」  
講師 かねはら小児科 院長 金原 洋治 氏
- (3) 特別講演  
演題「病気の子供の学びの充実に向けて～病弱教育への期待～」  
講師 文部科学省 初等中等教育局特別支援教育調査官 深草 瑞世氏
- (4) 特別企画  
ドキュメンタリー映画上映「がんと生きる 言葉の処方箋」©2018 がん哲学外来映画製作委員会
- (5) 分科会

分科会名	担当提言校	指導助言者
教科等の指導	栃木県立岡本特別支援学校 岡山県立早島支援学校	広島県立呉南特別支援学校 教頭 竹野 政彦氏
自立活動の指導	和歌山県立みはま支援学校 香川県立善通寺養護学校	関西学院大学教育学部 教授 丹羽 登氏
進路指導・キャリア教育	東京都立武蔵台学園府中分教室 島根県立松江緑が丘養護学校	松山東雲女子大学人文科学部 特任教授 島 治伸氏
センター的役割	秋田県立秋田きらり支援学校 鳥取県立鳥取養護学校	山口県教育庁特別支援教育推進室 主幹 勇次 伸一郎氏
PTA	熊本県立黒石原支援学校 山口県立豊浦総合支援学校	全病 PTA 連合会 事務局長 南風野 久子氏
心身症・精神疾患	青森県立浪岡養護学校 高知県立高知江の口特別支援学校	国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 土屋 忠之氏
重度重複障がい	大阪府立利根山支援学校 広島県立広島西特別支援学校	帝京平成大学人文社会学部児童学科 教授 齋藤 由美子氏
ICT 活用	愛知県立大府特別支援学校 徳島県立鴨島支援学校	京都女子大学発達教育学部 教授 滝川 国芳氏
地域連携	富山県立ふるさと支援学校 愛媛県立しげのぶ特別支援学校	山口大学教育学部 准教授 須藤 邦彦氏

### 3 報 告

今大会は、web 上で動画や電子文書の配信での開催となった。学校単位で申し込み、発行された ID とパスワードの入力で、大会期間中、閲覧することができた。そのため、夏季休業中の個人研修の一環として視聴することが可能で、多くの会員が大会に参加することができた。特別講演では、小児科の医師より、精神疾患や心身症が併存する発達障害は病弱特別支援教育の対象である。軽快・治癒する可能性はあるが、長期間にわたる治療が必要であり、その間の子供の状況に合った適切な教育の場の提供が臨まれる。医療と教育、福祉の連携が大切との話があった。分科会は、例年どおり9分科会設定されたが、内容の変更があった。スライドを用いた発表や指導助言も動画で配信されたが、どの発表も具体的な取り組みがあげられており、参考になり意義深い大会であった。

## 第 54 回全国情緒障害教育研究協議会 沖縄大会

## 第 50 回九州地区情緒障害教育研究会 沖縄大会

### 1 大会概要

- (1) 大会テーマ 「子どもたちの未来へつなぐ指導・支援のあり方を考える」  
～子どもたち一人一人に寄り添った学校教育と放課後支援を目指して～
- (2) 期 日 令和 4 年 8 月 4 日 (木) 12:30～16:30  
8 月 5 日 (金) 9:00～16:30
- (3) 場所 (会場) 那覇文化劇場なは一と (大劇場, 小劇場)

### 2 内 容

8 月 4 日 記念講演  
「うちの火星」～全員発達障がいの家族から学ぶ、個性と共に生きる知恵～  
平岡禎之, 妻 (ワッシーナ), 長女 (ニャーイ)  
ファシリテーター: 小浜ゆかり (NPO法人わくわくの会, 作業療法士)

8 月 5 日 分科会

#### 分科会 1: 自閉スペクトラム症

指導助言・講話 星槎大学大学院: 阿部利彦  
発表者 ①沖縄県南城市立大里南小学校: 圓歌苗  
②福岡県大牟田市立大牟田中央小学校: 井上由希子

#### 分科会 2: 教科指導, 自立活動

指導助言・講話 飯塚市立飯塚小学校: 杉本陽子  
発表者 ①北海道札幌市立大平小学校: 深谷和貴  
②山口県宇部市立岬小学校: 西田久美江

#### 分科会 3: LD・ADHD

指導助言・講話 明治学院大学: 海津亜希子  
発表者 ①大分県中津市立北部小学校: 佐々木悦子  
②佐賀県唐津市立西唐津小学校: 熊本愛子  
佐賀県唐津市立西唐津中学校: 家永真理子

#### 分科会 4: 放課後等デイサービスの取り組み

指導助言・講話 全国放課後連副会長 ゆうやけ子どもクラブ 代表: 村岡真治発表者  
①沖縄県 レジリエンススポーツセンター: 栄孝之  
②沖縄県 キッズハウス福寿草: 宇榮原宗博

### 3 報 告

障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うという目的のもと 2007 年 4 月から特別支援教育が学校教育法に位置づけられ、すべての学校において様々な取り組みが行われている。また、「障害者の権利に関する条約」の批准や「障害者差別解消法」の施行等、共生社会の形成に向けた体制づくりも進められてきた。

教育現場においては特別支援学級の急激な増加に伴い、教員の特別支援教育に対する専門性の向上、保護者や関係機関との緊密な連携が求められている。そして、児童生徒の放課後の過ごし方の充実や進路、就労に向けた支援の在り方も重要視されている。

本大会では、全国・九州各都道府県の学校教育や放課後等児童デイサービスの実践を共有し、個別の教育的ニーズに応じた支援の在り方について協議を行うことで、参加者の専門性や指導力を高め、児童生徒の未来へつなぐ支援の充実が図られた。

※ 大会資料より抜粋 (現地開催の為、出席者無し)

## 第5 1回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会（北海道大会）

### 1 大会概要

- (1) 大会テーマ 「ことばを支える『心の育ち』を大切にしたい支援のあり方を考える」
- (2) 期日 令和4年9月15日（木）～10月15日（土）
- (3) 方法 オンデマンド（YouTube）による映像配信

### 2 内容

- (1) 記念講演 「心とことばの育ちを支えるために私たちができること」  
講師 川合 紀宗 先生（広島大学大学院人間社会科学研究科教授）

- (2) 特別講義 分科会コーディネーターによる専門講義

第1分科会	同年代とのコミュニケーションに課題があるAさんの事例 (発表概要) 同年代の子どもとのコミュニケーション	滑川 典宏先生 (独立行政法人国立特別支援教育)
第2分科会	吃音のある子どもと母親の支援 ～グループ活動を通して～ (発表概要) 吃音・保護者支援	小野寺 基史先生 (北海道教育大学)
第3分科会	気持ちを心地よく表現しづらい吃音があるAさんの事例 (発表概要) 自己表現・吃音との関連	牧野 泰美先生 (独立行政法人国立特別支援教育)
第4分科会	発音の相談に来たけれど、他者との関わり方が心配なY君 (発表概要) 側音化構音・注意集中の課題	西田 立郎先生 (言語聴覚士)
	全体発達に課題のあるA君の事例 (発表概要) 発音不明瞭・子ども理解	
第5分科会	Aさんの前向きな学校生活を支える通級指導について (発表概要) 発音・自己表現の弱さ	久保山 茂樹先生 (独立行政法人国立特別支援教育)
第6分科会	地域の研究団体や親の会とのより深い連携を目指して (発表概要) 地域連携・親の会	大西 孝志先生 (東北福祉大学)

### 3 報告

今年度の研究大会は、新型コロナウイルス感染防止のため、記念講演と分科会についてオンデマンドによる映像配信となった。「その子をどのようにとらえていくか。」「問題をどのようにおさえ、問題の発生と経過をどうとらえるか。」「必要な育ちとは何か。どのようにかわり、支援するか。」「支援の経過をどのように振り返り、関係する人々とどう情報共有するか。」を柱とした研究大会で、子どもに寄り添った指導・支援の大切さを学ぶことができた大会となった。